

ひろしまの夏 プログラム

1部

・平和劇「郷田の8月6日」より
劇の一部上演とオリジナルソングの合唱
「ひめさゆりの花」
作詞・作曲 いもこじ劇団

・原爆詩 「慟哭」 大平和子作 朗読 森川宏子
・被爆体験記 三好 妙子 朗読 吉田知世
・原爆詩「ヒロシマの空」林幸子作 朗読 吉田知世

・弦楽四重奏
レスピーギ作曲
「リュートのための古代舞曲とアリア」 他

第一ヴァイオリン・中島 睦
第二ヴァイオリン・永井匠子
ヴィオラ・増田喜代
チェロ・乗本 幸

いもこじ劇団

二神正明	大林春美
小河由香里	小田千恵
筒井幸子	岡本浩子
古川綾子	若木広子
若木優大	長井千鶴子
田村恵美子	村上義博
山下三俊	宮尾奈央
木村一子	大野裕美
江坂祐子	小河雄祐
小田純士郎	岡本佳織
古川 愛	古川 幸
宮尾崇矩	木村淳一
大野裕也	大野志門

平成12年、東広島市郷田小学校の平和学習で子供達に見てもらうために、当時PTA副会長二神正明の旗揚げのもと、小学校PTAの保護者達を中心に「いもこじ劇団」を結成。地元在住の大林春美さんの体験をもとに、半年以上かけて平和劇「郷田の8月6日」を制作。平成12年10月、郷田小学校にて上演。平成14年8月、東広島市向陽中学校にて上演。平成16年7月、東広島市西条小学校にて上演。8月、郷田小学校にて上演。「いもこじ」とは、いもをこすりあわせて、皮をむくこと。いろいろな保護者が個性を出し合い、子供達に平和を語り継いでいく劇を作りたい、そんな思いをこめている。

第一ヴァイオリン 中島 睦
国立音楽大学卒業。田村五郎、井上武雄、中村 泉、W. レーマン、海野義雄に師事。東京都交響楽団に3年間在団。広島交響楽団、扉の会、広島アカデミー室内合奏団と共演。現在、広島音楽高等学校講師。広島アカデミー室内合奏団団員。

第二ヴァイオリン 永井匠子
武蔵野音楽大学卒業。広島オーストリア協会主催「サロンコンサート」など多数のコンサートに出演。石橋尚子、中村哲二、中島 睦、岸辺百百雄、磯英男、ロバート・ダヴィドヴィッチの各氏に師事。日本弦楽指導者協会会員。山陽女学園講師。

ヴィオラ 増田喜代
広島音楽高校、国立音楽大学卒業。中島睦、渡辺啓三、百武由紀の各氏に師事。オーケストラ・室内楽をはじめ、フリーのヴィオリストとして広島を中心に幅広く活動中。

チェロ 乗本 幸
エリザベト音楽大学卒業。9歳よりチェロを始める。田中美光、三木敬之、河野文昭の各氏に師事。1998年ルーマニア国立室内放送管弦楽団と共演。現在、フリーで活動中。

2部

・紙芝居「おばあちゃんの指切りげんまん」
田辺沙里 文、朗読 安田女子学園 演劇部

・神戸美和子さん お話し
・組曲「ひろしまの夏」
作詞 神戸美和子 作曲 五十嵐健作
ソプラノ 桂 政子、ピアノ 福政 歩
1. 「誕生 . . . 生命」、 2. 「友よ」
3. 「兄嫁の遺言」 4. 「七歳の黒い瞳」
5. 「灯ろう流し」 6. 「いのちの詩を織る」

・合唱 安田女子中学校 演劇部 ピアノ 福政 歩
ソプラノ 桂 政子 振付指導 田中 勤子

「灯ろう流し」 組曲「ひろしまの夏」より
「原爆を許すまじ」
「青い空は」 (会場全員合唱)

ソプラノ 桂 政子
エリザベト音楽大学卒業。ニューヨーク大学大学院音楽学部演奏課程にて修士を取得。ジュリアード音楽院で声楽とディクシオン、レパートリー研究を学ぶ。L. ベルタニョリオ、J. マックリーン、O. ワルラ=コロに師事。現在、エリザベト音楽大学助教授。

ピアノ 福政 歩
エリザベト音楽大学卒業、同大学院修了。マンハイム国立音楽大学大学院、チューリヒ音楽大学ディプロム後コース修了。歌曲伴奏、室内楽などを学ぶ。ヨーロッパ各地の音楽祭や演奏会でソロピアニストと声楽伴奏者として活躍。04年9月帰国。

安田女子中学校 演劇部

渡辺恭介	山下千晶	宮里芽郁	谷和佳奈	若見智子	吉田有希
中野 梓	高橋裕子	平尾綾香	沖本麻衣子	新迫美由紀	松島桃子
原田 霞	竹縄有紗	築地恵美	撰由里奈	近藤詩織	道祖尾綾子
高原沙紀	清水梨紗子	木村彩音			

神戸 美和子さん 五十嵐健作さん
「ひろしまの夏」の作詞者、神戸さんは、小学校2年生の時爆心地から4km離れた自宅で被爆した。転校した岡山県の中学で「ピカがうつる」と差別され、それから被爆体験を語ることは無かった。お母さんは、娘に堅く口止めをして諭した。この事が、お孫さんの書いた紙芝居「おばあちゃんの指切りげんまん」に語られている。その神戸さんが被爆体験を初めて語ったのは46歳の時、ケロイドの残る兄嫁さんが5歳の若さで亡くなると「私の体中を写真に撮っておきんさい。それを見た人が、気持ち悪いとか、ピカは恐ろしいと思うたら、うちはそれでええんよ。あんた、黙っとらんで、あの日恐ろしかったこと、みんなにいわにや。自分の子供がかわいかったら、がんばりんさいや」と言われた。「兄嫁の遺言」に、その2年後、神戸さんは「ピカ(原爆)」の語り部としての道を歩み始めた。東京都内の体験発表で同席した作家の早乙女勝元さんが、彼女の人生をテーマに作った詩「いのちの賛歌」、その合唱曲のお披露目で指揮したのが、中野区に住む作曲家 五十嵐健作さん。その縁で、神戸さんの詩6編に曲をつけた 組曲「ひろしまの夏」が完成した。

最終章の「いのちの詩を織る」には「迎える命と見送る命 / 織りなす綾の糸をつむぐように / わたしは生命の詩を織る」、亡くなった子供の分だけ、多くの命を取り上げていきたいと、助産婦の道を今も生きる神戸さんの心が語られている。